

アラシの一人旅 ～前編～[編集する](#)

2007 年 08 月 08 日 02:06 [友人の友人まで公開](#)

6 view



わかってました、台風がやって来ることは...

それでも男にや、行かねばならぬ時がある!!

《写真 1》 上高地より、穂高を見上げる。
(穂高はあの雲の中...。)

《写真 2》 岩だらけの中を、歩むのです。
(標高約 2900m、前穂から奥穂の間。)

《写真 3》 ここが日本で 3 番目に高い場所、奥穂高!!
360 度真っ白 & 笑えるほどの風が吹きまくりの中、
感動したような、してないような...

* * * * *

本来、梅雨明けから 10 日間は、日本全国が高気圧で覆われ、
山でも天候は安定。山男の血が騒ぎ出すシーズンと言われている。

となれば、今年こそ狙うは、穂高。

数年前から、20 代のうちに登頂したいと夢見ていた、穂高。

※ここで、穂高とは!? ある人の解説:

～山男で穂高に登らないのは、ジャイアンツファンが
東京ドームへ巨人戦を見に行かないのと同じことだ～

(これで、穂高がイメージしてもらえたでしょうか!?)

マニアックな話ですみません m(__)m でも山男にとって、
穂高は山の「聖地」といっても過言ではないほど、
難易度の高い、かつ気高き山なんです。

ここ数年、いろいろあって先延ばしになっていたものの、
ついに今年、夢の実現!! しかも今回はこれまた諸事情があり、
単独で「穂高～槍ヶ岳」という長丁場の難関ルートに挑戦!!

そんなわけで、前夜、夜行バスに乗って、
久しぶりに一人旅のはじまりはじまり～。

* * * * *

8月3日(金)

上高地 → 岳沢分岐 → 岳沢ヒュッテ → 紀美子平
6:35 7:00 8:35/8:40 11:00/11:10

→ 前穂高岳(3090m) → 紀美子平
11:30/11:40 12:00/12:15

→ 奥穂高岳(3190m) → 穂高岳山荘

13:40/14:00

14:30

一人旅、さっさと行くのも、だらだらするのも、自分次第。

でも今回は超いいペース(予定より1時間半も早く山荘に到着!)

その間、天気はずっと曇り。

雲の中に入ってから、当然真っ白な視界。

痛いくらいに下から吹き上げる風に見舞われた山頂付近。

それでもなんとか、念願の穂高に登頂...

(^^)v(^^v(^^v イエーイ! (^)v(^^v(^^v

でも、ここで喜んではいけない。

問題は明日の「穂高～槍ヶ岳」のルートであって、
明日こそ気を引き締めねば...

* * * * *

天気も悪いので、テント設営後は外に出る気もせず、ヒマになる。
こんなはずだっけ!? と思いつつ、夕食(親子丼)を作って食べ、
17:00 には、再びヒマ。明日に備えて、もう寝よう。

と思ったところに、事件は起こった。

WILD WIND 様だー!!

風が一気に吹き荒れ始める。
時々、テントの壁が、顔を直撃する。
それでも眠ろう眠ろうと言い聞かせ、
うとうとしかけた 18:00 過ぎ...

急に、テントの色が明るくなった。
ということは...

フライが飛ばされた!?

(※フライとは、テントの外側を覆う
テントのカバーのようなもの。)

外へ出てみると、フライの一部がかろうじてテントに
くっついているので、急いで張り直す。

ふう。(・・;)

ひと仕事終え、外に出たついでとばかりにトイレへ行き、
再びテントに戻ってみると…。

げっ…。(>_<)

またまたフライが剥がれてる…。

なんなんだー。

しかも、雨じゃ…。

こうなると、焦りつつも、もう無我夢中。

再びフライを張りなおし、さらにフライが飛ばないように
大きな岩でフライを押さえつけ(普段こんなことはしません。)
テントの中に避難。シュラフ(寝袋)にもぐりこむ。やれやれ。

そして目をつむるものの…。

眠れない。

風の音が。雨の音が…。もう、どうしろっつの!?

でも明日の長い行程のことも考えれば、
今夜はよく眠っておきたいんだってば!!

よしっ、こうなったら、決めたっ!!

結局、テントをそのまま残し、持てる荷物をすべて持って、
いざ山小屋へ避難したのであります。(19:30)

* * * * *

テント泊と小屋泊まりには、雲泥の差がある。
さすが、値段も 10 倍の差だけはあるからか!?
(テント泊¥600、小屋の素泊まり¥6000 1泊2食付だと¥9000)
飲み水も宿泊客は無料。(テント客は 1 リットル 150 円)
トイレはなんと水洗で、そのそばには洗面所もある。
小屋泊まりって、ステキ...!!

そして、雨風をしのげる部屋で、
敷き布団、毛布 2 枚に掛け布団が与えられる。
共同部屋だけど、それほど人も多くなく、
こりゃ今夜は快適に眠れそう...

遠くでビュービューと風の舞う音が聞こえる。
でも、明日にはこの台風が過ぎ去るはず。
明日が晴れてくれるのなら、
今のうちに、いくらでも吹いてくれ!!
このガスを、吹き飛ばしてくれー!!

そう願いながら、長い一日は終わり、
気がつけば深い眠りの世界へ...

つづく。

(後編も、お時間のある方は、お付き合いください。m(__)m)

アラシの一人旅 ～後編～[編集する](#)

2007 年 08 月 09 日 02:11 [友人の友人まで公開](#)

5 view



8 月 4 日(土)

3:30 目覚ましで起きる。夜中、一度も目が覚めず快眠～、
と思いながら蒲団からでると…。

ハッ!!

(* _ *)

オシリガヌレテル... (!_!)

漏らしたの、おれ!?

と思いきや、前を触てみると濡れてない。(ほっ。)
背中も濡れていないので、汗をかいたわけでもない。

となると... (?-?)

なんと、蒲団が右半分、湿っているのだ。
この日の寝場所は窓側だったのだが、
窓側の木目の壁が濡れていて、
それがふとんをじめじめと湿らせていたのだ。
素泊まりで、こんな経験初めて...

翌朝、小屋の人には、軽くクレームしておく。

「蒲団、もちろん、たたまなくていいですよねっ」

(→ささやかな抵抗)

あー、替えのパンツ、2枚持ってきていてよかった。
ちくしょー。

* * * * *

4:00。小屋の入口から外を見ると、満天の星空...

のはずが、まだまだ真っ白。しかも雨。

あれ、予定と違うぞ...

っつーか、なんでこうなるの!?

ここで一気に動く気力がなくなる。

今日のコース(穂高～槍ヶ岳)は難関コースだし、
悪天時には攻めたくない。

今日は一日、ここで停滞するしかないかな…。

そんな風に思ってしまうと、今からの行動は、部屋に戻り、
下半身裸で蒲団(左半分)にもぐりこむしかない。

* * * * *

4:30 小屋中の灯りがつくが、無理やり寝る。

5:00 小屋の朝食を食べる登山客が食堂へ向かっていったが、
やはり動く気力なし。眠る。

6:00 いい加減起きよう、と半濁きズボンをはいて
部屋の外に。小屋の入口に登山客がなにやら群がって
いると思ったら、ちょうど NHK の天気予報が。

「台風 5 号は、本日秋田に再上陸…。」

!(!-!)

えっ!?

台風 5 号よ、君はまだ日本海にいたのか!?

どうやら彼はのんびり進んでいるらしい。
そして、北アルプスは、思っきり暴風域の中。

しかも明日まで雨マークの長野県…。

6:45 小屋の入口のテーブルで朝食を作り始める。

ここで、昨日テント場で仲良くなった学生に出会う。

彼らは結局テントの中で一夜を明かしたが、
何度も激風に見舞われ、テントは一部浸水し、
シュラフ(寝袋)もびっちょりらしい…。

(おれも学生の頃は、そんなこともあったよなあ。)

とりあえず、学生にはお茶を入れてあげ、
元気を出してもらおう。

7:45 雨は止んだ。今のうちにテントを撤収しよう。

さすがに今夜、このテントで寝る気はしない…。

いざテント場へ向かうと、無事に飛ばされずにいた
テントを発見!!

がしかし、支柱となるポールが異様に曲がっている…。

あちゃー。

恐るべし、WILD WIND 様の力。

そして、すぐさま脳裏に浮かんだのが、Kay の顔…。

実はこのテント、Kay からの借り物でした。

Kay、ごめんなさい。m(__)m

とりあえず、突風が吹きすさぶ中、躍起になって
テントをたたむ。たたむ、というよりは、
風に飛ばされないように押さえつけて丸める。

Kay、ごめん。おれも戦っていたんだよ…。m(__)m

* * * * *

テントをたたみながら(まるめながら)ふと思った。
今日一日晴れないなら、ここにいても仕方ないかな…。

wildwind、夢半ばで挫折…。

だけど、下ろう。

急にそんな気になった。
今日帰れば、明日はテントのメンテナンスもできるしね。
また来てやるさ、槍穂連峰!!

穂高岳山荘 → 涸沢小屋 → 本谷橋 → 横尾
8:40 10:05/10:20 11:25/11:35 12:25

→ 徳沢 → 上高地
13:10/13:20 14:55

山荘から数メートル歩いて振り返ると、もう山荘は見えない。

そのくらい真っ白なガスの中。しかも雪渓(写真 1)

そんな中でも、たくましく育つ高山植物たちよ。(写真 2)

そんな中でも、ゴミ拾いしていたグリーンパトロールの若者よ。

(君たちのお陰で、今日も北アルプスは美しい。ありがとう!!)

急に緑が見えてきた、と思ったら、遠方に涸沢小屋。(写真 3)

視界が晴れる ⇒ 雲の下に抜け出た ⇒ 雨が降る…。

えんえんと歩いて歩いて、ようやく上高地。

* * * * *

上高地。突然、街に出た気分。観光客がひしめき合っている。

(山男は、奇抜な目で見られてしまう…。)

振り返れば、穂高はやっぱり雲の中。残念。

楽しみにしていた温泉は、時間外だと断られ(怒)、

上高地インフォメーションセンターにある

コインシャワーを使わせてもらう。

(→インフォメーションセンターの人、とってもいい人たち。)

さっぱりしたところで、バスと電車の旅路へ。いざ、帰京。

また来よう。

ここまで読んでくださった方々、長々でしたがありがとう

m(____)m

* * * * *

さて最後に、地元の小岩に着いたのが 23:30 頃。

しかしあれ、なんなんだ、いつもの小岩らしからぬ風景。

浴衣姿の若者がいっぱい…。

そうだった。今日は江戸川花火大会。

小岩が1年で1回、大繁盛する日。

(小岩へお越しの皆様、ようこそいらしゃいました～。)

でも、ホームに下りた瞬間目に飛び込んできたのが、

アイスクリームの残骸。

まあ、これは子供が落としてしまったのなら、仕方ないとしても、
その後の帰り道では、食べかけのごみやら、ペットボトルやら、
たばこの吸殻やらが散乱。

おいおまえら、街を大切にしろや!!

さらに商店街から住宅街に入ると、
住宅街のゴミ捨て場にさえ、山盛りのプラスチックゴミ…。

おい、明日は日曜だろ、ゴミ収集車は来るのかよ…。

山と街とのギャップ。どうしてこうもすごいんだろう…。

でも、こんな街で生まれ育ってしまったのも自分なので、
いつもの見慣れた風景、と納得してしまったり…。
ただ、あのグリーンパトロールの若者に
今日の小岩は見せられないなあ…。

そんなことを考えながら、帰宅。

一人旅は幕を閉じたのでありました。

ちゃんちゃん。